

## The Emerging Market Weekly

国際為替部

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周

03-3242-7065

amane.saito@mizuho-bk.co.jp

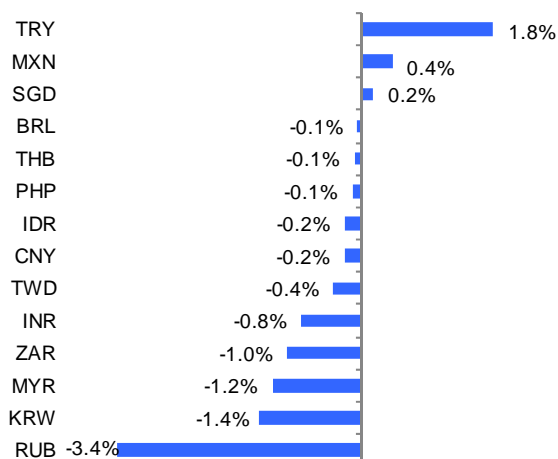
### 今週のエマージングマーケット

#### 強い米雇用統計の結果を受けて、新興国通貨は大半が下落

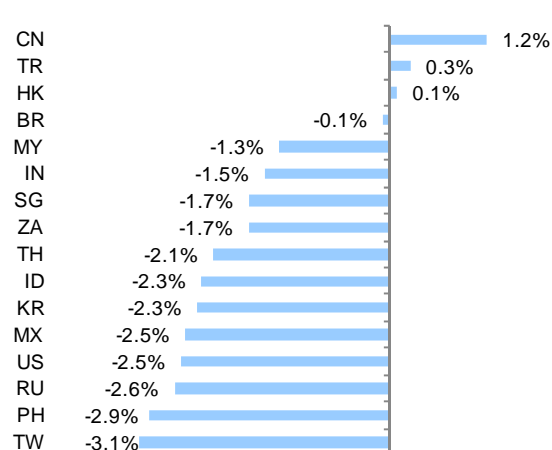
今週の新興国通貨は大半が下落した。先週末の強い米 10 月雇用統計の結果と年内米利上げ期待の高まりを背景に、週初からドル買い新興国通貨売りが急激に進んだ。OECD が 2015 年度の世界経済成長予想を下方修正したことを受けたリスク回避の動きからドルは一時的に弱含むも、ローゼングレン・ボストン連銀総裁の年内利上げは適切との発言を受けてドル買い基調に再び戻った。その後は特段材料もなく、ドルの上昇も一服したことから新興国通貨は落ち着きを取り戻す展開となった。11 日は NY 市場が休場であったため、各通貨とも小動きに留まった。

個別通貨で見ると原油価格が下落したことを背景に RUB (▲3.4%) と MYR (▲1.2%) は値を下げた。また米利上げ観測の高まりを受けて、韓国総合株式指数 (KOSPI) が下落し、KRW (▲1.4%) も連られて売られる展開となった。ZAR (▲1.0%) は主要輸出産品であるプラチナ価格の軟化を受けて下落。8 日に開票されたインドのビハール州議会選挙において、インド人民党 (BJP、与党) が予想に反し大敗し、INR (▲0.8%) は軟化。一方、先週のトルコ再選挙にて公正発展党 (AKP、与党) の勝利が好感されたことに加え、11 日に発表されたトルコ 9 月経常収支が 2009 年 10 月以来の高水準の黒字となったことから TRY (+1.8%) は上昇した。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスバ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料)ブルームバーグ

### エマージングマーケット短期見通し

#### 米 10 月雇用統計への反応は、主要国通貨と新興国通貨で異なる展開に

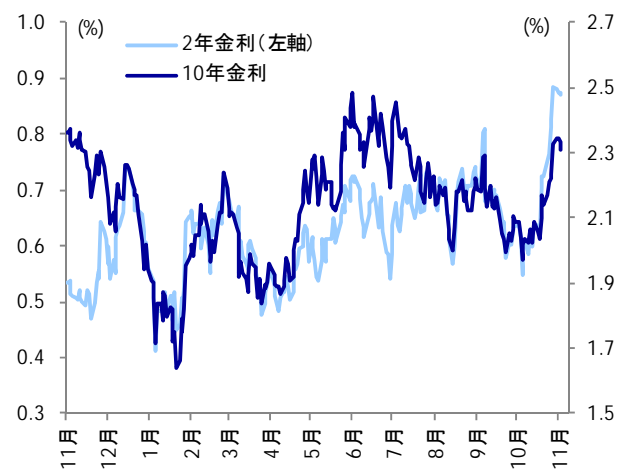
米 10 月雇用統計の良好な結果を受けて主要国の各金融市場は大きく反応

6 日（金）に発表された米 10 月雇用統計において、非農業部門雇用者数は前月比+27.1 万人と市場予想（同+18.5 万人）及び前月（同+13.7 万人）を大きく上回る結果となった。失業率も前月から低下し、平均賃金も前月比上昇するなど、総合的に見ても非の打ちどころのない良好な内容だったと言える。これを受けてユーロは今年の 4 月以来となる 1.07 台まで下がり、ドル/円も約 2 か月ぶりに 122 円を上抜ける展開となった。また、米 2 年国債利回りは一時 2010 年以来となる 0.95% 台をつけるなど、米各種金利も急騰した。

一方、新興国通貨の反応は限定的となっており、米利上げに対する備えが整いつつあることを示唆

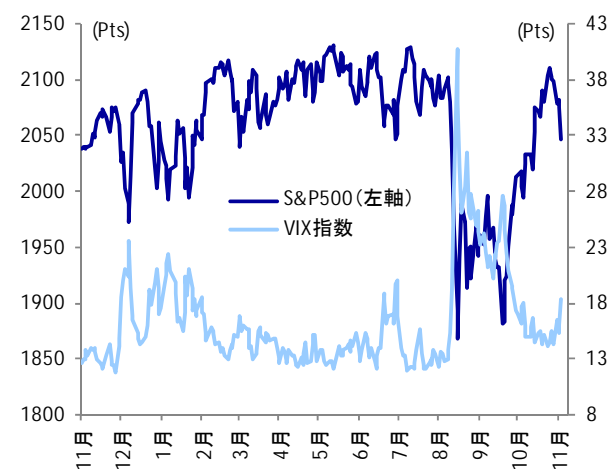
主要国の各金融市場が軒並み大きな反応を示す一方、新興国通貨の反応は限定的となった。雇用統計発表前と足許のレートを比較すると、RUB など資源国通貨を除けばほぼ▲1%前後の売り幅に留まっている。前月の米雇用統計が予想を大きく下回った際に、新興国通貨が軒並み急上昇したこととは好対照の反応といえる。つまり、弱い米経済指標には大きく反応し、強い場合には反応が薄いというように新興国通貨の反応が非対象になりつつあるといえよう。上述の事象は、新興国へのエクスポージャー調整があらかた終了し、米利上げへの備えが整いつつあることを示唆している。よって、今後も年内の米利上げ期待が更に高まったとしても、新興国通貨の売り幅は限定的となろう。むしろ短期的に気を付けるべきは、米利上げ期待よりもコモディティ市況だと考える。中国の 10 月輸入が冴えない結果となったことで、コモディティに対して今後一段と売り圧力が高まる可能性がある。実際、原油は緩やかながらも再び 8 月来の低水準に落ち込みつつあり、銅・プラチナ・金など貴金属類は下落が続いている。よって、来週の新興国通貨は、資源国通貨が冴えない動きとなる一方で、その他通貨はレンジ内の安定した値動きを予想する。

図表 1: 米国債利回りの推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ

図表 2: 米株と VIX 指数の推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ

エマージングマーケット:国別の注目材料

インド: モディ首相率いる BJP(国政与党)はビハール州選挙で大敗

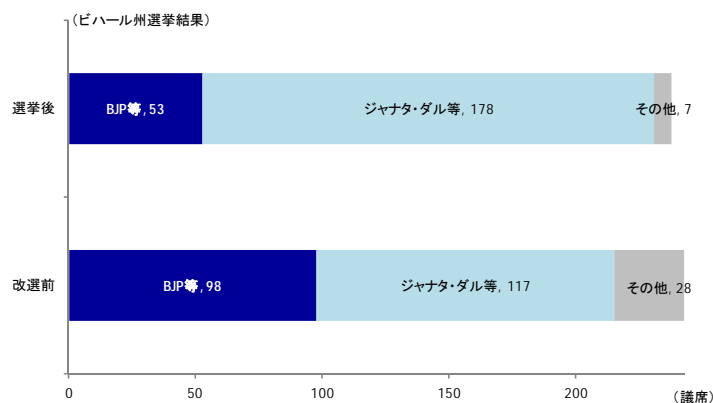
政権運営への影響は限定的も、モディ政権の指導力に陰りが見え始める

8日に開票が行われたインド・ビハール州議会選挙では、モディ首相が率いる国政与党であるインド人民党(BJP)を始めとした国民民主同盟(NDA)の獲得議席が243議席中58議席に留まり、改選前の98議席を約半減させる大敗を喫した。BJPは2015年2月のデリー首都圏の議会選でも敗北するなど、これまでの高い支持率に陰りが見えている。一方、州選挙で勝利を収めたのは州議会与党であるジャナダ・ダル党(JDU)を始めとした大同盟で、改選前の117議席から躍進して178議席を確保した。今回の選挙結果を受けてNDAは国会上院でも議席を減らすことになるが(国会上院は州議会選結果を受けた間接選挙)、上院でNDAは元々4分の1程度しか議席を持っておらず、政権運営における実務上の影響は大きくないだろう。

今回選挙が行われたビハール州は、インド29州の中で最も一人当たり所得の低い州で、農業従事者が多いためモディ政権が進める土地収用法改正に対して批判的な声が強いと言われている。そのため、モディ首相は同選挙を見据えて、土地収用法改正への動きをトーンダウンさせるなど、州選挙での勝利を重視する姿勢を見せていた。

しかしながら、モディ政権下で州民の生活水準が改善しないことや、ヒンズー教至上主義を掲げるBJP幹部によるイスラム教徒への批判発言を受けてNDAは惨敗した。相次ぐ地方選挙での敗北を受けて、これまで期待先行で評価されてきたともいえるモディ政権への指導力に陰りが見え始めている。2016年5月に予定される2つの州選挙(タミルナドゥ州、西ベンガル州)でもNDAが議席を失うようであれば、政権がレームダック化するリスクが高まるだろう。

図表3: インド ビハール州選挙 政党別議席数の内訳



(資料)各種報道よりみずほ銀行作成

(注) 議席には空席が生じることもあり、議席合計数は一致しない場合がある

### インドネシア：金融政策決定会合プレビュー

利下げ余地は拡大するも、堅調な国内経済や米利上げ期待の高まりを背景に政策金利は据え置きか

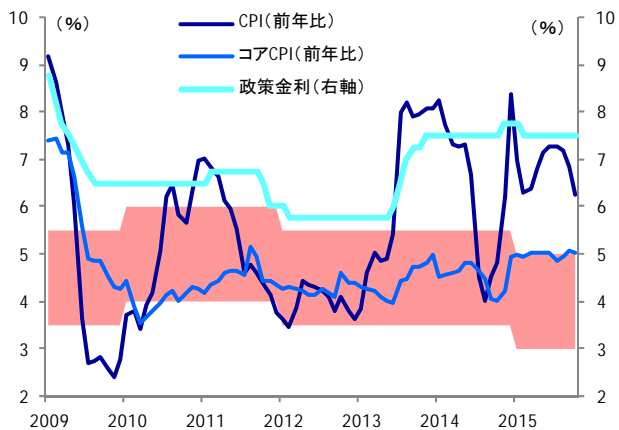
17日(火)に開催されるインドネシア中銀(BI)の金融政策決定会合では政策金利の据え置きを予想する。前回10月15日会合の声明でBIは、「マクロ経済の安定性に対する(下方)圧力は和らいでおり、金融政策を緩める余地が生じている」としたものの、「グローバルな金融市場の環境は(国内経済の)助けとなるが、不確実性は大きく、そのリスクを慎重に見極めていく」との姿勢を示している。その後、11月2日に発表されたインドネシア10月消費者物価指数(CPI)は前年比+6.3%(9月同+6.8%)と11か月ぶりの低水準まで減速し、コアCPI(食品・エネルギーを除く)も同+5.0%(9月同+5.1%)と小幅に減速した。こうしたインフレ率の低下によりBIには利下げ余地が生じている。但し、5日発表のインドネシア7~9月期GDPは前年比+4.73%と市場予想(同+4.80%)を下回ったが、これまで景気けん引役と期待されつつも進捗が遅れていたインフラ投資が全体を押し上げ、4~6月期(同+4.67%)からは伸びが拡大した。これにより、景気停滞を理由とした利下げの必要性は低下していると言えよう。また、ここもとで年内の米利上げ期待拡大に伴うドル上昇の動きを受けて、IDRが下落しやすい相場環境となっていることから、BIは利下げには踏み切らず、今会合でも現状の政策金利を据え置くと予想する。

### 南アフリカ：金融政策決定会合プレビュー

米利上げ期待の高まりを受けて、SARBは利上げを実施すると予想

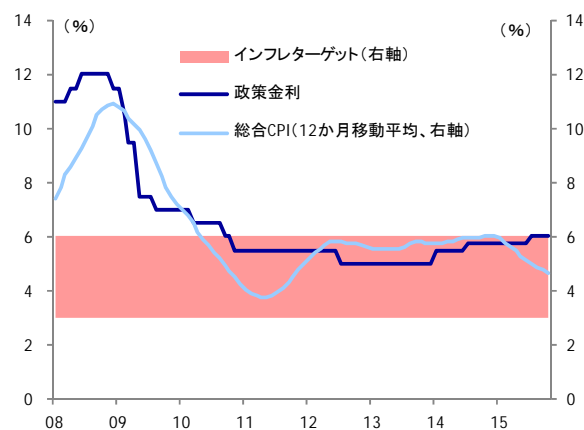
19日(木)に開催される南アフリカ中銀(SARB)の金融政策決定会合では、25bpの利上げを予想する。前回9月23日の会合でSARBは全会一致で政策金利(レポレート)を6.00%に据え置くことを決定した。声明文では、SARBは「主要目標(インフレ率を目標レンジに抑えること)の実現が短期的な経済成長を過度に下押ししないようなバランスを達成しないと見えない」としており、国内景気の鈍化に配慮して政策金利を据え置いたと見られる。但し、同時に「インフレ見通しが崩壊するようなことがあれば、適切に対応することを躊躇しない」とタカ派的な姿勢も示している。SARBは先行き1~2年のインフレ見通しを重視す

図表4：インドネシア 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表5：南アフリカ 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

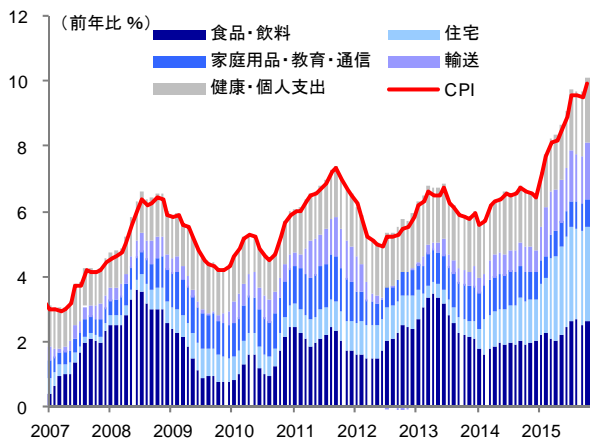
る傾向にあり、7月23日の会合では、6月CPI(7月22日発表)が前年比+4.7%と目標レンジ(+3~+6%)に収まっていたのにも拘わらず、米利上げ期待に伴うZAR安を受けた輸入物価上昇へ備えて25bpの利上げを実施した。今回の会合に際しても、9月CPIは前年比+4.6%と目標レンジ内に落ち着いているが、年内の米利上げ期待が高まっている。そのため、SARBは7月と同様に米利上げに先手を打つ格好で、今会合にて利上げに踏み切ると予想する。

**ブラジル：消費者物価指数は加速止まらず**

インフレ圧力はいまだ衰えず、BCBの利下げ余地は限定的となるだろう

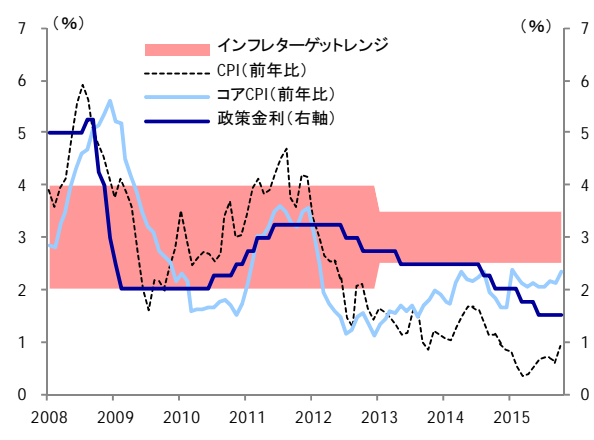
6日に発表されたブラジル10月拡大消費者物価指数(IPCA)は前年比+9.93%と9月(同+9.49%)から加速し、2003年11月以来の高水準となった。内訳をみるとBRL安進行を受けてガソリン小売価格が上昇したため、輸送費が前年比+9.48%(9月同+8.05%)と伸びが加速したほか、飲食料品費(同+10.4%)も9月(同+10.0%)から上昇幅が拡大している。また、光熱費や公共交通費などの管理価格は前年比+17.5%と9月(同+16.4%)から加速しており、非管理価格も同+7.7%と9月(同+7.5%)から伸びが見られた。なお、先行きの賃金に関するサービス価格(ブラジルでは過去のインフレ率に合わせて最低賃金を調整)は同+8.4%(9月同+8.2%)と高い伸び率を維持しており、今後は賃金の増加を通して物価上昇圧力がかかるだろう。2016年1~3月期にはベース効果によるインフレ率の減速が見込まれるものの、2016年末頃のインフレ率はブラジル中銀(BCB)目標(+2.5~+6.5%)のレンジ上限付近にあると予想する。以上のように、2016年のインフレ率は今年に比べて減速すると見られるが、依然として目標の中心値を上回って推移する可能性が高く、引き続きBCBの利下げ余地は限定的であろう。

図表 6: ブラジル 消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 7: 韓国 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

韓国:金融政策決定会合レビュー

BOK は来年初まで現政策を維持するだろう

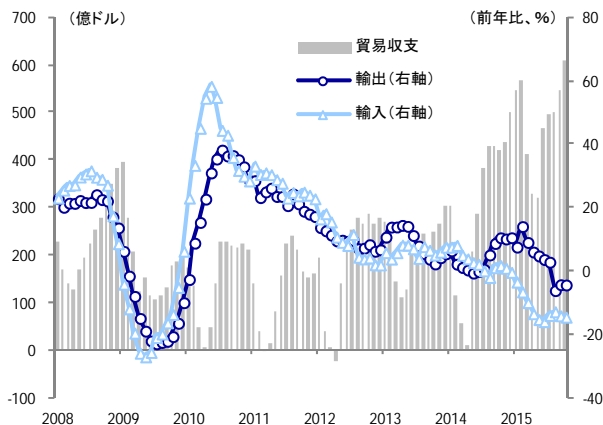
韓国中銀 (BOK) は 12 日の金融通貨委員会にて市場予想通り、全会一致で政策金利を現状の 1.5% に据え置くことを決定した。今回で 5 か月連続の据え置きとなる。声明文は前回とほぼ変化はみられず、輸出の不振は続くものの、国内消費は堅調との見方を維持した。実際、本会合前に発表された 7~9 月期 GDP は前年比+2.6% (市場予想同+2.4%、4~6 月期同+2.2%) と内需項目を中心に成長が加速したほか、10 月消費者信頼感や 10 月鉱工業生産など内需関連指標は改善の動きを見せている。また、BOK の李柱烈総裁は会合後の記者会見で、輸出支援のために利下げを行うべきではないのかとの意見に対し、「為替は韓国の輸出に影響を与える唯一の要因ではない」と述べ、為替政策の一環として利下げを行うことに否定的な態度を示した。同時に、「景気回復の持続を見極めるために 1 月まで待つ必要」があるとも述べていることから、BOK は少なくとも来年初まで現政策を維持するだろう。

中国: 輸出は予想外の大幅マイナスに

来月の貿易統計からいよいよ本格的な輸出の回復が見られるか

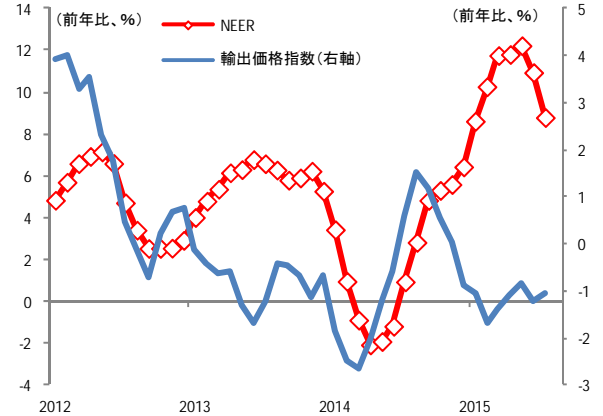
8 日に発表された中国 10 月貿易統計では、輸出が前年比▲6.9% (市場予想: 同▲3.2%、9 月: 同▲3.7%) と市場予想及び前月実績も下回る結果となった。一方で、輸入は前年比▲18.8% (市場予想: 同▲15.2%、9 月: 同▲20.4%) と市場予想よりも縮小幅は上回るものの、前月対比では改善した。上述の通り輸出は冴えない結果となったが、名目実効為替レート(前年比)の下落に 3 か月程度遅れて輸出は増加する傾向があり、8 月に行われた CNY の実質的な切り下げ効果は 11 月の貿易統計から本格的に顕在化すると考えている。ただし、懸念も残っている。自国通貨切り下げは、輸出価格を下げる代わりに、数量の伸びによって輸出総額 (= 価格 × 数量) を引き上げる政策である。2012 年の CNY 安局面では、輸出価格が下がり、輸出総額は増えるという上述の関係性が見られた。しかし、2013 年に CNY 高局面になると、輸出価格は上昇せずむしろ低下基調が続いた。これは為替レートの変動

図表 8: 中国 貿易収支



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行  
(注) 輸出、輸入ともに 3 か月移動平均

図表 9: 中国 NEER(名目実効為替レート)と輸出価格指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行  
(注) NEER、輸出価格指数ともに 3 か月移動平均

分を、輸出価格に上乗せすることは難しいことを示唆している。そのため、2014年に再び CNY 安局面が訪れたが、今まで圧縮されていた利鞘分を取り戻すために、輸出企業が輸出価格を引き下がるまでには時間がかかっている。2015 年前半においても 2013 年時と比較して CNY の上昇率が更に高まる中、輸出価格を引き下げているため、輸出企業の利潤は前回の CNY 高局面以上に圧迫されていると想定される。よって、CNY 安が輸出価格引き下げにつながるのに更に時間がかかる恐れがあるといえよう。来月発表される 11 月貿易統計でも輸出の改善が見られない場合、上述の状況に陥っている可能性があり、輸出の持ち直しが来年上半旬まで後ずれするリスクが出てきたと考える。

11 日に発表された中国の内需関連指標では、10 月鉱工業生産が前年比+5.6% (前月:同+5.7%)、10 月固定資産投資が年初来前年比+10.2% (前月:同+10.3%) と冴えない結果となる一方、10 月小売売上高は前年比+11.0% (前月:同+10.9%) と 4 か月連続で改善した。底堅い個人消費が確認できたことは中国経済にとって明るい材料だが、一連の利下げにも拘わらず固定資産投資が伸びないことは、過去の過剰設備が足枷となっていることを示唆している。中国経済は財政政策や金融緩和による下支えが必要な状況が続くだろう。

## エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
<b>エマージングアジア</b>						
11月6日 (金)	マレーシア	9月 貿易収支 (MYR)	10.4B	9.69B	10.19B	10.16B
8日 (日)	中国	10月 貿易収支	\$62.00B	\$61.64B	\$60.34B	--
8日 (日)	中国	10月 輸出(前年比)	-3.2%	-6.9%	-3.7%	--
9日 (月)	台湾	10月 貿易収支	\$5.19B	\$6.12B	\$5.25B	--
10日 (火)	フィリピン	9月 輸出(前年比)	-8.3%	-24.7%	-6.3%	--
10日 (火)	中国	10月 消費者物価指数(前年比)	1.5%	1.3%	1.6%	--
11日 (水)	中国	10月 小売売上高(前年比)	10.9%	11.0%	10.9%	--
11日 (水)	中国	10月 固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	10.2%	10.2%	10.3%	--
12日 (木)	韓国	11月 韓国銀行7日間レートの	1.50%	1.50%	1.50%	--
12日 (木)	フィリピン	11月 BSP翌日物借入金利	4.00%	4.00%	4.00%	--
12日 (木)	インド	10月 消費者物価指数(前年比)	4.9%	5.0%	4.4%	--
12日 (木)	中国	10月 新規貸出(人民元)	800.0B	513.6B	1050.0B	--
12日 (木)	中国	10月 M2(前年比)	13.2%	13.5%	13.1%	--
13日 (金)	マレーシア	3Q GDP(前年比)	4.7%	--	4.9%	--
13日 (金)	マレーシア	3Q 経常収支MYR	5.7B	--	7.6B	--
13日 (金)	インドネシア	3Q 経常収支	--	--	-\$4477M	--
16日 (月)	タイ	3Q GDP(前年比)	2.5%	--	2.8%	--
16日 (月)	インドネシア	10月 貿易収支	--	--	\$1017M	--
16日 (月)	インド	10月 卸売物価(前年比)	-3.9%	--	-4.5%	--
16日 (月)	フィリピン	9月 海外送金(前年比)	--	--	-0.6%	--
16~20日	インド	10月 貿易収支	-\$11050M	--	-\$10478M	--
17日 (火)	インドネシア	11月 インドネシア銀行レファレンス・レート	--	--	7.50%	--
17日 (火)	シンガポール	10月 非石油地場輸出(前年比)	--	--	0.3%	--
18~25日	シンガポール	3Q GDP(前年比)	--	--	1.4%	--
20日 (金)	マレーシア	10月 消費者物価指数	--	--	2.6%	--
20日 (金)	台湾	3Q 国際収支：経常収支	--	--	\$16550M	--
<b>中東欧・アフリカ</b>						
11月11日 (水)	トルコ	9月 経常収支	-0.08B	0.10B	-0.16B	0.03B
11日 (水)	ロシア	9月 貿易収支	8.9B	9.6B	8.7B	--
12日 (木)	ロシア	3Q GDP(前年比)	-4.4%	4.1%	-4.6%	--
17~18日	ロシア	10月 鉱工業生産(前年比)	-4.2%	--	-3.7%	--
18日 (水)	南アフリカ	10月 消費者物価指数(前年比)	4.7%	--	4.6%	--
18日 (水)	南アフリカ	9月 小売売上高(実質値、前年比)	4.1%	--	3.9%	--
19日 (木)	ロシア	10月 実質小売売上高(前年比)	-10.0%	--	-10.4%	--
19日 (木)	南アフリカ	11月 SARB政策金利	6.00%	--	6.00%	--
20日 (金)	トルコ	10月 消費者信頼感指数	--	--	62.8	--
<b>ラテンアメリカ</b>						
11月6日 (金)	ブラジル	10月 IBGEインフレ率IPCA(前年比)	9.91%	9.93%	9.49%	--
6日 (金)	メキシコ	10月 消費者信頼感指数	90.0	91.3	90.6	--
9日 (月)	メキシコ	10月 消費者物価指数(前年比)	2.5%	2.5%	2.5%	--
12日 (木)	ブラジル	9月 広義小売売上高(前月比)	-2.5%	-1.5%	-2.0%	--
13~18日	ブラジル	9月 経済活動(前年比)	-6.1%	--	-4.5%	--
20日 (金)	メキシコ	9月 経済活動IGAE(前年比)	2.2%	--	2.6%	--
20日 (金)	メキシコ	3Q GDP(前年比)	2.3%	--	2.2%	--

(注)2015年11月13日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。  
(資料)ブルームバーグ



エマージング通貨相場見通し

		2015年 1～10月(実績)	SPOT	12月	2016年 3月	6月	9月	12月
<b>対ドル</b>								
<b>エマージングアジア</b>								
中国人民元	(CNY)	6.1818 ~ 6.4489	6.3690	6.45	6.40	6.36	6.30	6.28
香港ドル	(HKD)	7.7496 ~ 7.7744	7.7502	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	61.295 ~ 66.890	66.314	66.5	66.5	65.0	63.0	62.5
インドネシアルピア	(IDR)	12378 ~ 14828	13597	14500	14500	14000	13750	13500
韓国ウォン	(KRW)	1065.21 ~ 1208.72	1158.30	1200	1180	1150	1120	1090
マレーシアリング	(MYR)	3.4960 ~ 4.4812	4.3650	4.40	4.40	4.15	4.00	3.90
フィリピンペソ	(PHP)	43.950 ~ 47.059	46.995	46.9	47.0	46.3	45.6	44.9
シンガポールドル	(SGD)	1.3151 ~ 1.4335	1.4181	1.39	1.38	1.36	1.34	1.33
台湾ドル	(TWD)	30.354 ~ 33.329	32.715	32.90	32.70	32.40	31.90	31.70
タイバーツ	(THB)	32.29 ~ 36.51	35.86	36.9	37.0	36.5	36.0	35.5
ベトナムドン	(VND)	21256 ~ 22547	22403	22550	23000	23000	23000	23000
<b>中東欧・アフリカ</b>								
ロシアルーブル	(RUB)	48.1365 ~ 71.8030	66.6032	70.00	68.00	65.00	60.00	60.00
南アフリカランド	(ZAR)	11.2575 ~ 14.1588	14.3103	14.00	13.50	13.00	13.00	13.00
トルコリラ	(TRY)	2.2727 ~ 3.0752	2.8653	3.30	3.40	3.50	3.50	3.50
<b>ラテンアメリカ</b>								
ブラジルレアル	(BRL)	2.5493 ~ 4.2478	3.7711	4.05	4.30	4.40	4.30	4.20
メキシコペソ	(MXN)	14.4357 ~ 17.3425	16.7478	17.30	17.00	16.90	16.60	16.40
<b>対円</b>								
<b>エマージングアジア</b>								
中国人民元	(CNY)	18.210 ~ 20.285	19.253	18.91	19.06	18.87	18.73	18.47
香港ドル	(HKD)	14.946 ~ 16.233	15.822	15.72	15.72	15.46	15.21	14.95
インドルピー	(INR)	1.747 ~ 1.971	1.849	1.83	1.83	1.85	1.87	1.86
インドネシアルピア	(100IDR)	0.806 ~ 0.969	0.902	0.841	0.841	0.857	0.858	0.859
韓国ウォン	(100KRW)	9.688 ~ 11.266	10.578	10.17	10.34	10.43	10.54	10.64
マレーシアリング	(MYR)	26.646 ~ 34.334	28.163	27.73	27.73	28.92	29.50	29.74
フィリピンペソ	(PHP)	2.521 ~ 2.800	2.616	2.60	2.60	2.59	2.59	2.58
シンガポールドル	(SGD)	82.40 ~ 92.89	86.47	87.77	88.41	88.24	88.06	87.22
台湾ドル	(TWD)	3.551 ~ 4.078	3.748	3.71	3.73	3.70	3.70	3.66
タイバーツ	(THB)	3.267 ~ 3.737	3.420	3.31	3.30	3.29	3.28	3.27
ベトナムドン	(100VND)	0.5178 ~ 0.5768	0.5474	0.54	0.53	0.52	0.51	0.50
<b>中東欧・アフリカ</b>								
ロシアルーブル	(RUB)	1.644 ~ 2.652	1.839	1.74	1.79	1.85	1.97	1.93
南アフリカランド	(ZAR)	8.431 ~ 10.453	8.569	8.71	9.04	9.23	9.08	8.92
トルコリラ	(TRY)	38.853 ~ 52.258	42.781	36.97	35.88	34.29	33.71	33.14
<b>ラテンアメリカ</b>								
ブラジルレアル	(BRL)	28.163 ~ 46.148	32.518	30.12	28.37	27.27	27.44	27.62
メキシコペソ	(MXN)	6.764 ~ 8.199	7.322	7.05	7.18	7.10	7.11	7.07

(注)1. 実績の欄は10月30日まで。SPOTは11月13日の8時30分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。  
(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。